資料8

介護福祉士を目指す
外国人介護人材受入施設のための指導者養成研修

介護福祉士国家資格取得までの支援
③学習環境整備

外国人教育者チームとして他施設に
助言をする際の留意点

令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得に向けた指導者養成の在り方に関する調査研究事業」
カリキュラム部会

2023年12月

公益社団 国際厚生事業団 JICWELS
全体通し番号121

目次

1. 介護福祉士国家資格取得までの支援　③学習環境整備

- 受入れ施設の関わり方のポイント
- 具体的なサポート例

2. 外国人教育者チームとして他施設に助言をする際の留意点

1. 介護福祉士国家資格取得までの支援　③学習環境整備

受入れ施設の関わり方のポイント（1/3）

（１）外国人介護人材の学習に継続的に関わる学習支援担当者の配置

（２）個々の状況に合った学習計画の作成

・本人の意向やビジョン、業務状況、日本語力等を参考に。

（３）学習支援担当者が関わる学習時間の確保

・かかわる時間が、外国人介護人材との信頼を深める。
・学習支援担当者の役割＝「舵取り役」（学習の方向付けをする等）
（例）・学習進捗状況の確認・評価
・面談による振り返り
・質問・悩みへの対応

受入れ施設の関わり方のポイント（2/3）

（４）介護行為の根拠を学べる学習環境をつくる

・毎日の介護現場は、介護知識・技術の学びの場
・「なぜこの利用者にはこの介護が必要なのか」等も教えることで、記憶に残りやすく、専門学習に活きる。

（５）学習支援担当者だけに負担がかからないための工夫

・複数の担当者でサポートチームを作り、連携して学習に関わる。
・所属部署の職員と情報を共有する仕組み作り。

（６）外部講師との連携

・外部に任せたままで、施設側が学習状況を把握していないケースも。
・外部との連絡担当者を配置する等、学習状況を把握できる体制をつくる。

受入れ施設の関わり方のポイント（3/3）

（７）自己学習環境の整備

・インターネット環境の整備
・オンライン学習ツールの提供　等

（８）メンタルケアへの配慮／気軽に質問・相談できるような体制や雰囲気作り

・遠慮しがちな外国人介護人材のメンタル面は把握しずらいことも。
・日々の声かけ、定例面談などで、信頼を深める。

（９）他の職員との調整を図る

・外国人介護人材の学習や資格取得を、施設全体で応援する雰囲気作りに努める。
（社内に向けた説明会等による受入れ前からの情報提供、交流の場の提供等）
・国家資格取得を目指す日本人職員との合同勉強会で共に学習し、仲間意識や連帯感を高める。

1. 介護福祉士国家資格取得までの支援　③学習環境整備

具体的なサポート例

◆キャリアパスという観点から、将来どのようなビジョンを描いているか、本人に確認する

↓

◆国家資格取得を目指す場合は、何年計画で合格を目指すか、具体的な目標を定める

↓

◆国家試験受験までの長期の学習計画を立てる

・計画の中には、長期目標（1か月～半年）、短期目標（1～3か月）を設定し、学習の管理や評価を行う。

・学習計画の中には「実務者研修」の受講も組み込み、受講開始後はその進捗を確認しながらフォローアップを行う。

・受験時期に合わせて、模擬試験の受験を組み込むなど、実践的な学習をサポートする。

1. 介護福祉士国家資格取得までの支援　③学習環境整備

具体的なサポート例

◆定期的に学習の進捗を確認し、必要に応じてアドバイスや軌道修正をするなど、継続的に関わる

◆使用テキストやe-ラーニング等による学習がどこまで進んでいるかを本人・担当者共にチェックできるような管理表を準備する

◆定期的な面談の機会を設ける

・将来のビジョンについて定期的に話し合いを行うことで、目標を再確認する。

・学習の進捗や不安な点についてヒアリングを行い、必要な助言を行う。

・定期的に学習状況等を確認・分析し、必要に応じて学習計画の軌道修正や学習方法等の見直しを行う。

◆気分転換、リフレッシュできる環境づくりを行う。（一時帰国、食事会・レクリエーションなどの交流会等）

2. 外国人教育者チームとして他施設に助言をする際の留意点の例

（１）相手の話をしっかり傾聴する

（２）アドバイスが押しつけにならないように注意する

受入れ施設や外国人介護人材の状況によって、取り入れられそうなものを取り入れてもらうというスタンスでアドバイスを行う。

（３）現在受入れ施設が行っている方法や環境を否定するような言い方は控える

信頼関係を損なわないように、まずは施設のやり方を受容する。

（４）より良い学習支援ができるように、共に考えていこうという姿勢で臨む

現実的で効果的な提案を行うために、担当者の意見を聞き、積極的に話し合う。

（５）質問への回答が分からない場合は持ち帰る

特に制度面に関する内容については、誤った情報を与えないように留意する。

（６）外国人教育者自身の経験や知見から、より具体的なアドバイスを行う

「あくまで私見であるが」「私の知っている事例では」などの前置きをしたうえで説明を行うとよい。

介護福祉士を目指す外国人介護人材受入れ施設のための指導者養成研修
参加者様 アンケート（例）

本日は、当研修にご参加いただき、ありがとうございました。アンケートにご協力をお願いします。

貴法人・団体名		事業所・学校名	
お名前		E-mail	

Ⅰ．ご参加の日程・会場をお答えください（1つに〇）。

１．●/●（●）〇〇会場　２．●/●（●）〇〇会場　３．●/●（●）〇〇会場

Ⅱ．本日の研修をどのように知りましたか（あてはまるものいくつでも〇）。

１．都道府県HPをみた
２．都道府県からの連絡で知った
３．業界団体からの連絡で知った
４．知人からの紹介があった
５．その他（　　）

Ⅲ．本日の研修プログラムに対する満足度を教えてください（それぞれ、1つに〇）。

１．とても満足　２．満足　３．やや不満　４．不満

Ⅳ．本日の研修プログラムのなかで、特に役立ったものを教えてください（あてはまるものいくつでも〇）。

1. 事業の趣旨説明
2. 在留資格・主要な送出国に係る基礎知識
3. 外国人介護人材が介護福祉士国家資格を取得することの意義
4. 介護福祉士国家資格取得までの支援（①介護）
5. 介護福祉士国家資格取得までの支援（②日本語）
6. 介護福祉士国家資格取得までの支援（③学習環境整備）
7. 外国人教育者チームとして他施設に助言をする際の留意点
8. 参加者同士の意見交換

Ⅴ．上記Ⅳで選んだプログラムについて、具体的に役立った点を教えてください（自由記述）

Ⅵ．外国人教育者チームとして他施設に訪問し、助言することについて、現時点のご希望を教えてください（1つに〇）。

※本回答を持って訪問義務が発生することはございません。施設・事業所に訪問するどうかはご希望・ご都合に応じてご判断いただけます。

１．派遣可能　２．相談内容や派遣先の施設・事業所の状況に応じて判断したい　３．派遣不可

Ⅶ．【介護施設・事業所の方のみ】貴施設・事業所が外国人教育者チームを受け入れる可能性ついて教えてください（1つに〇）。

※本回答を持って受入れ義務が発生することはございません。あくまで可能性としてお答えください。

１．受入れ可能　２．受入れ時期や内容に応じて判断したい　３．派遣不可

Ⅷ．本研修を受講したご感想、ご意見等がございましたら、ご記入ください。

（個人情報取り扱いに関する規定、その他連絡事項等）

参考資料

受入施設の成功事例： ウェルグループ（本社：大阪府大阪市、介護事業本部：奈良県大和郡山市）

＜グループの概要＞

- ウェルグループ（奈良県大和郡山市）は、医療・介護・健康福祉事業、海外・教育・人材事業、ITソリューション・コンサル事業を柱にして多角的な事業展開を行っている。
- 2016年8月、質の高い介護サービスを持続的に提供し続けるため、外国人技能実習生受入れ事業を開始。
  現在では、**グループ内に日本語学校、監理団体（2社）、登録支援機関（1社）、研修センター**を有し、グループ内の各施設で外国人介護人材を受け入れるとともに、他の法人・施設（近畿二府四県及び三重県）の支援も実施している。
- 2018年7月、同グループが発起人となり、一般社団法人全国メディケア事業協議会（以下、「全国メディケア事業協議会」という。）を設立。
  外国人材の教育訓練事業、マッチングサービス・派遣事業、ITシステム・サービス事業、海外事業等を展開している。

（出所）ウェルグループ提供資料（以下同様）

一般社団法人全国メディケア事業協議会 事業内容

全国の医療・介護・福祉事業所が求める
ヒト・モノ・チエを支援します。

ヒト
- 介護の海外人材育成・派遣
- 介護人材教育

モノ
- 介護に関する必要なインフラ、モノ整備のサポート（DX化やコスト削減策含む）

チエ
- 補助金申請等のコンサルティング
- その他、介護経営に関するコンサルティング

受入施設の成功事例： ウェルグループ（本社：大阪府大阪市、介護事業本部：奈良県大和郡山市）

＜外国人介護人材の受入れ状況＞

- ウェルグループが運営する施設では、技能実習生（110名）、特定技能外国人（50名）等、**計230名の外国人介護人材の受入実績**を有する。出身国・地域は「ベトナム（147名）」が多い。外国人介護人材の中から、**ユニットリーダー、寮長、外国人リーダーとして活躍**する者も出てきている。
- グループ内の監理団体、登録支援機関が、平成29年4月～令和5年8月末までに受け入れた、介護分野の技能実習生及び特定技能外国人の人数は600人となっており、関西一円（近畿二府四県、三重県）の法人・施設で働いている。

＜介護福祉士国家試験の受験結果＞

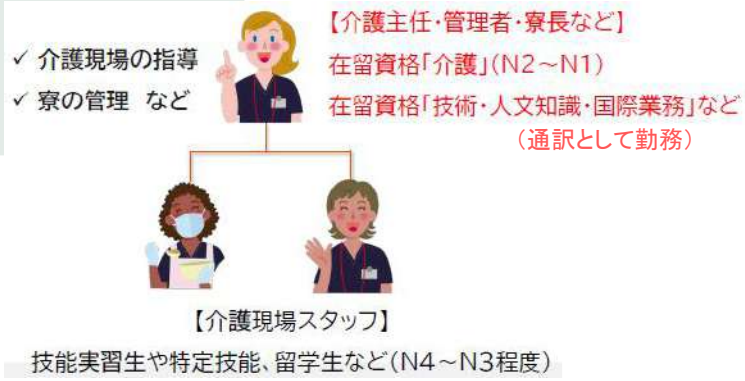
- 第35回介護福祉士国家試験（2022年度）については、**受験者15人のうち13人が合格**した（**合格率86.7%**）。

ウェルグループでの海外人材紹介マッチング実績

在留資格	人数	地域内訳	役職者
技能実習	110名	ベトナム：147名	ユニットリーダー
特定技能	50名	中国：35名	寮長
介護	10名	インド：25名	外国人リーダー
留学	50名	フィリピン：12名	
その他（身分系）	10名	インドネシア：10名	
計	230名	ネパール：1名	

外国人介護人材　公的資格の受験状況

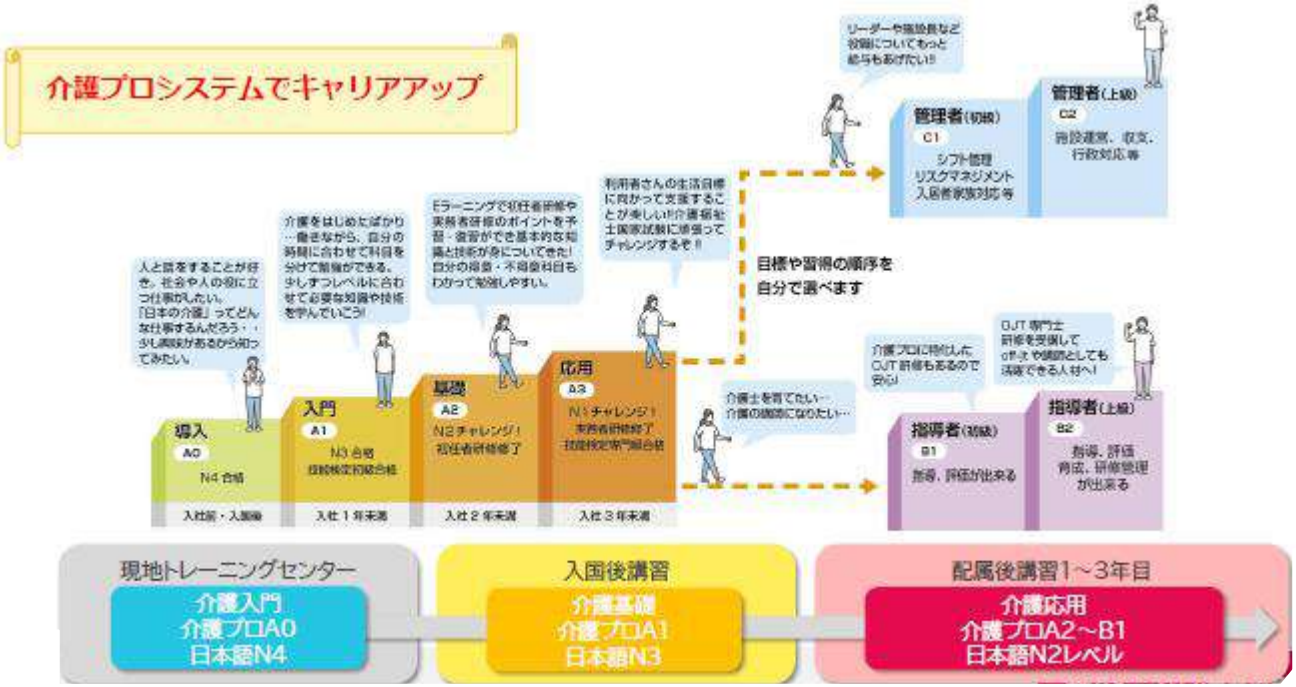
	初任者研修受講	実務者研修受講	介護福祉士受験	介護福祉士合格
2021年度まで	12名			
2022年度	31名	23名	15名	13名
2023年度	23名	21名	12名	



受入施設の成功事例： ウェルグループ（本社：大阪府大阪市、介護事業本部：奈良県大和郡山市）

＜外国人介護人材の学習環境整備　～キャリアパス制度の見える化～ ＞

- グループ内での認定資格である**「介護プロシステム」というキャリアパス制度を構築**している。介護プロシステムは、介護技術と社会性をチェックリストによる評価と筆記試験や実技試験、面接試験により判断し、A～E級の認定を行い能力の「見える化」を行う。例えば、C級になると主任になることができる。6段階のレベル設定により、現状や目標が分かりやすくなり、キャリアプランが明確になる。
- 外国人の場合、現地トレーニングセンターで介護プロA0（ゼロ）及びJLPT N4、入国後講習で介護プロA1及びJLPT N3、配属後講習（1～3年目）で介護プロA2～B1及びJLPT N2を目指す。
- 介護プロシステムは、昇進・昇格や異動と結びついている。例えば、B1で他の職員の指導、評価が出来るようになると技能手当が支給される。



受入施設の成功事例： ウェルグループ（本社：大阪府大阪市、介護事業本部：奈良県大和郡山市）

＜外国人介護人材の学習環境整備　～3年を通した計画で介護福祉士を目指す～＞

- 介護入門コース、介護基礎コース、介護応用コースを設け、3年を通した計画で介護福祉士国家資格取得を目指す体制を整え、**入職以降、継続的な支援**を行っている。介護福祉士国家資格取得者には、資格手当を支給している。介護福祉士国家資格の取得により、**ケアの質の向上**、**本人の自信につながる**等のメリットがある。
- 全国メディケア事業協議会に、**グループ全体及び他の法人・施設の教育を担当する専門部署（教育部）**を設けている。また、ウェルグループの**施設側では、介護事業部全体の教育に係るリーダー、各施設の教育担当者を配置**している。
- **教育部と施設側が密に連携**し、各職員の授業の様子や模擬テストの点数、苦手な科目や課題等を共有している。**教育部と施設側の目指す方向性が一致**しており、**授業で学ぶことと現場で指摘を受けることの間に違いが生じない**ようにしている。
- グループ内の研修センターにて「介護福祉士受験対策講座」を実施しており、外国人職員には特に受講を勧めている。**本講座の受講時間は勤務扱い**とし、**シフトにも配慮**し、受講しやすい環境を整えている。

【介護の教育内容】　３年を通した計画で介護福祉士を目指せ！

	AI 介護入門コース	A2 介護基礎コース	A3 介護応用コース	
	・入国後講習の復習 ・初任者研修受講に向けての予習	・介護職員が学ぶべき基礎知識 ・初任者研修の予習・復習 ・実務者研修受講に向けての予習	・知識・技術の応用 ・実務者研修の予習・復習 ・介護福祉士国家試験に向けた知識	介護福祉士国家試験科目
1	介護の基本Ⅰ（介護で大切なこと）	介護における尊厳の保持・自立支援	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立
2	介護の基本Ⅱ（利用者の理解）	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅱ	介護の基本
3	コミュニケーション技術	介護・福祉サービスの理解と医療の連携	社会の理解Ⅱ	社会の理解
4	生活支援技術　移動の介護	介護におけるコミュニケーションの技術	コミュニケーション技術	人間関係とコミュニケーション
5	生活支援技術　食事の介護	老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ	コミュニケーション技術
6	生活支援技術　排泄の介護	認知症の理解Ⅰ	認知症の理解Ⅱ	発達と老化の理解
7	生活支援技術　みじたくの介護	障害の理解Ⅰ	障害の理解Ⅱ	認知症の理解
8	生活支援技術　入浴・身体の清潔の介護	こころとからだのしくみと生活支援技術	こころとからだのしくみⅡ	障害の理解
9	生活支援技術　家事の介護	介護過程Ⅰ（基礎的理解）	生活支援技術Ⅱ	こころとからだのしくみ
10	修了評価	修了評価	介護過程Ⅱ・Ⅲ（展開演習）	生活支援技術
11			医療的ケア	介護過程
12			修了評価	医療的ケア
13				総合問題
	日本語検定 N4～N3	日本語検定 N3～N2	日本語検定 N2～N1	一般社団法人 全国メディケア事業協議会

参考資料

受入施設の成功事例： アサヒケアサービス（所在地：京都府京都市伏見区深草西浦町二丁目96）

＜グループの概要＞

■ アサヒケアサービス株式会社は、認知症共同生活介護（グループホーム）3か所、地域密着型通所介護・介護予防型デイサービス1か所、居宅介護支援事業所1か所を運営し、介護事業を展開している。

＜外国人介護人材の受入れ状況＞

■ アサヒケアサービスが運営する施設では、技能実習生（3名）、特定技能外国人（1名）、在留資格「介護」（1名）が在籍している。出身国・地域はベトナム（3名）、ミャンマー（2名）となっている。

＜介護福祉士国家試験の受験結果・周囲に与えた影響＞

■ ベトナム人2名が介護福祉士国家試験に合格している。そのうち1名は在留資格「介護」で引き続きアサヒケアサービスで働いている。もう1名は障害分野について学ぶため、別の法人で働いている。

■ 介護福祉士国家資格を取得することによって、本人は大きな自信につながり、後輩への指導も自信をもって出来るようになった。現在では、法人内の国家試験対策講座の講師を努めるなど、活躍の場を広げている。

■ 外国人2名が努力をし、日本人にとっても難しい介護福祉士国家試験に合格したことで、周囲は刺激を受けている。

人材育成

方針

パーソンセンタード・ケアの考え方を身につけ、ケアに関わる全ての人達に対し、これを実践できる人物になって行くことを目指し実施する。組織の一員として1人ひとりが向上心を持ちチームの向上に努めることが出来る職員と組織風土の構築を目指します。私たちの学びとチームワーク力が、利用者様やご家族、地域住民の方々、社会に向けてサービスの質向上や専門職としての役割を発揮できる力となるよう学習します。

1. 介護福祉士実務者研修事業の実施をしており、自法人の職員のステップアップにしています。
2. 他事業所合同研修を実施しています。
3. 新人教育の充実・キャリアパス制度の導入・健康管理に関する取組の実施・地域や学校との交流も積極的にしており、安心して働くことの出来る職場として、「きょうと福祉人材育成認証制度」を取得しています。

アサヒケアサービスが大切にすること

- 利用者様に第二の我が家と思っていただけるような安心した暮らし
- 利用者様に寄り添い、最期まで"手を離さない"介護の実践

詳しくはこちら

（出所）アサヒケアサービスHP

受入施設の成功事例： アサヒケアサービス（所在地：京都府京都市伏見区深草西浦町二丁目96）

＜外国人介護人材の学習環境整備　～介護福祉士国家資格を志し学習を支える職場づくり～ ＞

- 介護福祉士国家資格取得を目指すかどうかは本人の希望次第であるが、利用者に触れたり介助をしたりするとき、資格があることで自信を持って対応できることを実践において見せたり伝えたりすることで、**資格を取りたいと思える職場づくり**を心掛けている。職員からは、数年働くと「資格を取りたい」と声が上がる。
- 日常生活においても仕事においても役立つということで、**日本語能力試験N2、および介護福祉士の試験の受験を技能実習生全員に意識させている**。
- 勉強のため、本人の要望を聞きつつ、事業所の管理者や主任がシフトを調整している。現場では介護の勉強をし、その意味合い、根拠、高齢者の気持ちなどを座学で勉強するなど、**現場と座学のバランス**が取れることで介護の深さが分かると考えている。
- 介護福祉士国家試験に向けた勉強に当たっては、**職員の声掛け**が効果的であった。職員も介護福祉士国家試験の経験者であるため、気持ちが分かるほか、試験の相場感が分かっており、アドバイスができる。 現場と試験の内容が違うことは意識しつつ、**試験問題が仕事に直結することもあるため、食事を作ったり介助をしたりしながら、試験問題の話をしていた**。また、年配の職員は癒しの部分、資格保持者はしっかり指導するなど、**職員間でもバランスを取ってコミュニケーション**ができていた。

（出所）京都府外国人介護人材支援センターによるインタビュー記事
（左：https://fukujob.kyoshakyo.or.jp/kpfcsc_event/6770/）
（最終閲覧日はいずれも2024年3月26日）

（右：https://fukujob.kyoshakyo.or.jp/kpfcsc_event/6776/）

受入施設の成功事例： アサヒケアサービス（所在地：京都府京都市伏見区深草西浦町二丁目96）

＜外国人介護人材の学習環境整備　～監理団体と連携し学習環境を充実～＞

- 技能実習生の監理団体である京都介護サービス協同組合を通して、入国時に日本でずっと働きたいのか、3年で帰国してしたいのかを確認している。その後も毎月組合が事業所を訪問し、技能実習生から楽しかったこと、辛かったこと、学びたかったこと等を聞き取る。2年経つと技能実習2号になるので、**将来の目標を明確にすることがより重要と実習生に伝えている**。
- 仕事の休みの日にに対面で2回ほど、**組合主催の勉強会**をした。その後コロナ禍になり、オンライン勉強会に変更した。市販のテキストを使い、学習者同士で言葉の意味や内容を教え合ってもらった。介護福祉士試験合格者のベトナム人スタッフがベトナム語の通訳を申し出てくれたこともあり、和気藹々とした雰囲気で勉強していた。
- 2023年度の介護福祉士国家試験対策としては、**2023年10月から月２回、介護福祉士受験対策講座を実施**し、１月の試験に備えた。

京都介護サービス協同組合　事業内容

外国人技能実習生受入事業

ベトナムをはじめとしたアジア圏から若年層を受入れ、介護施設での実践教育を通じて、日本式介護技術を習得し、母国にその経験とノウハウを活かし自らの職業生活の向上、母国の経済発展に寄与できる人材育成を目的として取り組んでいます。

外国人技能実習制度について

実習開始までの流れ

教育支援事業

介護の人材育成支援の一つとして、講習会や勉強会を実施しています。
組合員などに対してのサービス提供の向上・安定的な内容の充実を図るため、専門的な講習会や技術者による勉強会などを積極的に取り入れ、優秀な人材育成を目指してサポートしています。

偶数月には交流会としてお花見やホタルのゆうべ、啓蒙活動として警察ご協力のもと、犯罪防止講習会、技能実習生と事業施設のモチベーションアップとして、日本語作文コンクールを行なっています。

施設ご担当者様のお声はこちら

共同購買事業

組合員様が必要とする共通の物品や資材等を加入者によるスケールメリットを活かし、一括購入する事でコスト削減に一躍を担います。

（出所）京都介護サービス協同組合HP（https://www.kyoto-kaigoservice.com/%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E5%86%85%E5%AE%B9）（最終閲覧日：2024年3月26日）

厚生労働省 令和５年度 老人保健健康増進等事業
外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得に向けた指導者養成の在り方に関する調査研究事業
介護福祉士を目指す外国人介護人材受入れ施設のための指導者養成研修
講師一覧

（敬称略、所属先・肩書は令和 6 月 3 月末時点）

講演テーマ：在留資格・主要な送出国に係る基礎知識

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社

講演テーマ：外国人介護人材が介護福祉士国家資格を取得することの意義

伊藤　優子　　龍谷大学短期大学部　教授

二渡　努　　東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科　講師

講演テーマ：介護福祉士国家資格取得までの支援（①介護）

伊藤　優子　　龍谷大学短期大学部　教授

天野　ゆかり　　静岡県立大学　経営情報学部 大学院経営情報イノベーション研究科
講師

講演テーマ：介護福祉士国家資格取得までの支援　（②日本語）

橋本　由紀江　　一般社団法人国際交流＆日本語支援Ｙ　代表理事

有賀　久美子　　一般社団法人国際交流＆日本語支援Ｙ　理事

講演テーマ：介護福祉士国家資格取得までの支援（③学習環境整備）、
外国人教育者チームとして他施設に助言をする際の留意点

笹沼　昌子　　公益社団法人国際厚生事業団　国際・研修事業部　部長

植村　康生　　公益社団法人国際厚生事業団　国際・研修事業部　主幹

参加者募集用チラシ（例）

介護福祉士を目指す外国人介護人材受入施設のための指導者養成研修

参加無料

開催日時	●年●月●日（●） XX:XX～XX:XX（開場 XX:XX）	定　員	定員●名
会　場	●●（裏面参照）	主　催	●●

概要

働きながら介護福祉士国家資格取得を目指す外国人介護人材（技能実習生、特定技能外国人等）を受け入れている施設の教育担当者をはじめとした関係者の皆様を対象に、学習支援や指導方法に関するセミナーを開催いたします。

本セミナーを受講した皆様には、ここで得られた知見をご所属の法人・施設の運営に役立てていただくとともに、新たに外国人介護人材を受け入れた施設の教育担当者にご助言いただくなど、地域における指導者として活躍していただくことを目的としています。

対象者

外国人介護人材（技能実習生、特定技能外国人等）の受入施設で教育担当をしている方、
介護福祉士養成施設の先生、介護福祉士会等で介護に関する各種研修の講師を経験したことのある方　／等

※ 本研修を履修いただくと他施設・事業所へ派遣される指導者候補として登録されることになります。ただし、実際に他施設・事業所へ派遣されるかどうかはご希望・ご都合に応じてご判断いただけます。

プログラム（例）

※講師の都合等により変更の可能性があります。

開始時間	内 容
10:30	ご挨拶・事業の趣旨説明
10:45	在留資格・主要な送出国に係る基礎知識
11:00	外国人介護人材が介護福祉士国家資格を取得することの意義
11:30	介護福祉士国家資格取得までの支援（①介護）
12:30	休憩
13:30	介護福祉士国家資格取得までの支援（②日本語）
14:30	介護福祉士国家資格取得までの支援（③学習環境整備）
14:55	外国人教育者チームとして他施設に助言をする際の留意点
15:15	参加者同士の意見交換
16:00	終了

お申込はこちらから

※ ●/●（●）申込開始

イメージ

お問い合わせ先

研修事務局（株式会社●●）

Tel　：XX-XXXX-XXXX
E-mail：XXXXXX@XX.jp
（担当：●●、●●）

会　　場

●●（会場名）

●●（会場住所等）

【アクセス】
- ●●駅 徒歩●分　など

（会場アクセスの地図等）

お申込の流れ

お申込専用URL

https://XXX.XXXXXXXX

申込開始　**申込締切**

申込フォームの表示

表面の二次元コードもしくはお申込専用URL（上記）からお申込ください

セキュリティ警告が表示された場合は、**「許可」**をクリックしてください

申込フォームへ入力

各項目を入力して**「次へ」**ボタンを押してください

入力内容の確認と送信

入力内容をご確認後、**「登録する」**ボタンを押してください

ご登録いただいたアドレスに申込確認メールが配信されます

申込完了です

受講証

開催までに、登録いただいたメールアドレス宛に、当日のご案内をお送りいたします

変更・取り消し等ございましたら表面記載「お問い合わせ先」までご連絡下さい

お申込・開催に際しての留意事項

- 反社会的勢力に該当すると認められる場合は、お申込を受付することができません。
- 同業者の方はお申込をお断りさせていただく場合があります。
- お申込多数の場合、ご参加人数の調整をお願いすることがございます。
- 止むを得ない事情により、予告なくプログラムに変更が生じる場合がございます。
- 会場での録音・撮影は固くお断りいたします。

個人情報の取り扱いについて

（個人情報取り扱いに関する規定、その他連絡事項等）

参加者申込フォーム（例）

個人情報の取り扱いに同意する　□（チェックボックス）

氏名	
法人・団体名	
事業所名・学校名	
役職	
都道府県	
市区郡町村	
番地	
ビル・マンション名	
電話番号	
E-mail	
E-mail（確認等）	

＝＝研修受講にあたって事前アンケートにお答えください＝＝

Ⅰ．ご所属の団体は以下のどれになりますか。（１つのみ選択）

1.　外国人介護人材受入れ法人・事業所　⇒Ⅱへ 2.　介護福祉士養成施設 3.　日本語教育機関	4.　関係団体・機関 5.　行政機関 6.　その他

上記Ⅰで「１」と回答した方のみお答えください。

Ⅱ－１　受け入れている外国人介護人材の人数を教えてください。

□　人

Ⅱ－２　受け入れている外国人介護人材の在留資格を教えてください。（複数回答可）

1.　技能実習 2.　特定技能	3.　特定活動（EPA） 4.　留学	5.　介護 6.　その他

外国人教育者チーム受入れのお願い　事前記入シート

以下の事項につきまして、事前準備のため、可能な範囲でご記入をお願いします。
ご記入いただいた内容は、外国人教育者チームのメンバーと共有させていただきます。

1.　施設の概要

(1) 施設名

(2)　外国人介護人材受入れについて連携している監理団体、登録支援機関、その他関係機関（自治体、業界団体等）

(3) 今回ご協力いただく施設の外国人介護人材受入れ状況

	人数	出身国・地域
技能実習	人	
特定技能	人	
EPA	人	
介護	人	
留学	人	
その他	人	

（もしあれば）貴法人が運営しているその他の施設の外国人介護人材受入れ状況

	人数	出身国・地域
技能実習	人	
特定技能	人	
EPA	人	
介護	人	
留学	人	
その他	人	

(4) 外国人介護人材の学習支援に係る職員数

人数 [　　] 人　　兼務の状況　（　専任　・　兼任　）

2.　外国人介護人材の学習支援についての課題、相談したいこと

働きながら介護福祉士国家資格取得を目指す外国人介護人材（技能実習生、特定技能外国人等）の学習支援、介護福祉士国家資格の取得について、日頃感じている課題、他の受入れ施設や介護福祉士養成施設、日本語学校と意見交換をしてみたいことについてご記入をお願いします。

(1) 介護の学習支援について

(2) 日本語の学習支援について

(3) 学習環境の整備について

(4) その他

※例えば「受入れ施設の職員への支援」等、外国人介護人材の受入れ、学習支援に関することであれば何でも結構です。

以上

外国人教育者チーム派遣記録（概要）（茨城県）

＜日時・場所＞

日時：令和 6（2024）年 2 月 16 日（金）10:10～11:50

場所：社会福祉法人陽康会 特別養護老人ホームあいおんの里羽鳥（茨城県小美玉市羽刈 653-7）

＜参加者＞

（外国人教育者チーム）

社会福祉法人北養会 いばらき中央福祉専門学校

株式会社 K&K 日立さくら日本語学校

（訪問先）

社会福祉法人陽康会 特別養護老人ホーム あいおんの里羽鳥、あいおんの丘大子

（オブザーバー）

茨城県福祉部福祉政策課

（事務局）

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング

1. 外国人教育者チームについて

(1) いばらき中央福祉専門学校

- 1997 年開校。特別養護老人ホームと保育園を併設する介護福祉士養成校。
- 数年前から留学生の受入れを開始し、現在 2 年生 10 名、1 年生 8 名が在籍している。法人内に技能実習生もいて、日本語を指導している。
- 介護施設からの依頼で外国人職員に日本語能力試験 N2、N3 レベルの対策をしたり、介護の専門用語を教えたりした経験がある。

(2) 日立さくら日本語学校

- 2018 年設立の日本語学校。日本の大学や専門学校に進学を希望する人を対象に、進学 2 年コースと、進学 1 年 6 か月コースを設けている。
- 日本語学校は、スポーツに例えると、どのスポーツでも必要な基礎体力の部分だと思っている。基礎体力ができてはじめて、さまざまな専門学校に送り出していく。外国人留学生が最初に来る教育機関が日本語学校なので、日本社会を円滑に定着するまでのサポートもしている。日立市も人口流出が問題になっており、学校の理念にも地域貢献があるのでお互い問題を共有して一緒にできることがあればと思い、今回の派遣に参加した。

2.　訪問先（特別養護老人ホーム あいおんの里羽鳥）について

(1) 参加の経緯

・　社会福祉法人陽康会では 3 つの施設を運営している。法人として外国人をどのように受け入れるか、受入れ先でどのように育て、キャリアを積んでもらうかという視点で昨年 12 月の「介護福祉士を目指す外国人介護人材受入施設のための指導者養成研修」に参加した。今回、指導者に来ていただいてお話を伺える機会ということで、手を挙げた。

(2) 施設の概要

① 施設概要

・　定員 80 名のユニット型特養と、40 名の従来型施設を備えている。技能実習生は従来型で勤務し、電話や記録ができる特定技能外国人はユニットで勤務している。

・　従来型では、日本人含め複数人職員がいる環境で仕事ができる。20 人や 40 人の利用者を 17~18 人程の職員でみるため、外国人が 1 人いても何かあった時に他の日本人が対応できる。夜勤の際も、外国人は日本人と 2 人 1 組で対応ができる。

・　ユニットは 10 人の利用者を 4、5 人の職員がシフト制で担当する。したがって職員がユニットに 5 人しかおらず、24 時間制の中で出入りがあるため、職員が 1 人になる時間が多く、夜勤も 1 人で行う場面がある。となると、ある程度の水準の日本語スキルが身についていなければいけない。

② 外国人介護人材の受入れ状況

・　技能実習 3 人（ベトナム）、特定技能 3 人（ベトナム）

・　令和 6 年 4 月にインドネシアから特定技能 3 人が入国予定

③ 外国人介護人材の受入れ経緯

・　コロナ直前、技能実習生の受入れを始めた。最初に入職したベトナム人は、技能実習修了後に特定技能に移行し、当施設の勤続 5 年目を迎えている。

・　当施設では、技能実習生は延べ 5 人の採用経験がある。1 人は技能実習の 3 年が終わったタイミングで結婚を機に帰国した。2 年目を迎える技能実習生は 3 人である。

・　特定技能のベトナム人 3 人は、留学生として来ていたがコロナで帰国できなくなり、特定技能に切り替えて日本に滞在することになった。介護以外の他分野の専門学校に行っていたが、オーバーワークや卒業しても就職先がないなどの理由で、介護業界に切り替えたとのことだった。彼らは当施設に来るまでに日本語学校で 1 年、それぞれの専門学校で 1～2 年勉強してきたので、日本語能力が高く日本語ベースでの業務ができた。もうすぐ勤続 3 年目で戦力となっていたが、今年度で 3 人とも退職する。理由は結婚、別の業界への転職、東京の他施設への転職である。介護の仕事や当施設の魅力を十分に理解してもらうことが出来なかったのかもしれない。

・　退職予定者を除いて、残るのはベトナム人 4 人である。また、今年 4 月にインドネシア

から 3 人入国する予定である。1 人は別業界で技能実習 3 年を終わらせたが、他 2 人は初めて来日するようである。

・ 技能実習生 3 人中 1 人は仕事を続けたいという意向があるが、年齢が 33 歳で子どももいるため、技能実習が終わったら帰国して、その後の進退について家族と相談したいと言っている。同じ境遇の方がもう 1 人いる。残る 1 人は 22 歳で高校卒業後に入職した。特に介護分野でずっと働きたいという話は聞かない。

④ 介護福祉士国家試験の受験状況

・ 5 年目を迎えたベトナム人は、昨年実務者研修を受け、今年の 1 月に介護福祉士国家試験を受験したと聞いているが、自己採点では不合格の見込みである。30 代で子どもと夫がベトナムにいて、夫が日本に来る可能性があり、自身が介護の仕事を続けるのかも分からず、勉強に身が入らなかったようである。施設側も支援がなかなかできなかった。

⑤ 生活支援・教育体制

・ 外国人介護人材のサポートはそれぞれの施設に任されており、施設間では少し情報共有するのみである。人員不足もあり、特別な時間を設けてサポートするなどといった教育体制はできていない。

・ 外国人介護人材の学習支援に係る職員は 1 人で、外国人介護人材の指導の専任ではなく、現場のリーダー職が OJT で教えている。

・ 技能実習生の日本語レベルは、日本語能力試験 N2 が 1 人、N3 が 1 人、N4 が 1 人である。退職する特定技能の 3 人は全員 N2 を持っている。

(3) 学習支援についての課題等

・ 新たにインドネシアから特定技能として来る 3 人に対して、施設としてどういった支援ができるかアドバイスをいただきたい。

・ 介護福祉士国家試験に向けてどんな支援ができるかイメージがつかず、教えていただきたい。

3.　訪問先（特別養護老人ホーム あいおんの丘大子）について

(1) 参加の経緯

・　社会福祉法人陽康会が運営する 3 施設のうち、あいおんの丘大子（以下「大子」という。）だけ場所が離れていて、交通の便が悪く、都市部に移りたいという外国人介護人材が多い。一方、施設としては、なんとか地元に残って長く働いてほしいため、今回は外国人介護人材の教育システムの構築に役立てていきたいと思い出席した。

(2) 施設の概要

① 施設概要

・　全てユニット型特養で、定員は 70 名である。

・　前述のとおりユニット型では 1 人で業務を回すことが求められるところ、当施設の特定技能外国人は全員 1 人で業務を回せるようになっている。

② 外国人介護人材の受入れ状況

・　特定技能 5 人（ベトナム 3 人、ネパール 2 人）

・　ベトナム人 3 人は、令和 3 年 2 月に初めて技能実習生として受け入れた 2 人と、令和 4 年 11 月に来たベトナム人 1 人。

・　ネパール人 2 人は、令和 5 年 5 月に特定技能として入職した。

・　2024 年 3 月頃にミャンマー人の特定技能が入職する予定である。

③ 外国人介護人材の受入れ経緯

・　令和 3 年 2 月にベトナム人技能実習生 3 人を初めて受け入れた。その内 2 人は 3 年間の技能実習を修了し、令和 6 年 2 月から特定技能に切り替えて就業している。残り 1 人は最初に日本語能力試験 N2 を取ったが、技能実習の 3 年目で帰国した。理由は腰痛持ちや介護疲れ、他の仕事に就きたい、違う国へ行きたいというものであった。

・　令和 4 年 11 月にベトナム人を特定技能で 1 人受け入れた。他の施設で技能実習生として 1 年働いたが、待遇面や条件面で不満があり転職したとのことであった。

・　令和 5 年 5 月、特定技能のネパール人 2 人とベトナム 2 人を受け入れた。ベトナム 2 人は 1 年間工場で勤務した経験があり、当施設で初めて介護職についたが、今年の 1 月で 2 人とも同時に退職した。退職理由は大子の土地柄と介護の仕事が合わないということだった。事前に面接に来てもらい、職場環境や会社の福利厚生を見てもらったうえで採用したが、ミスマッチが起こってしまった。

・　ネパール人 2 人は現在も就業中で、日本で留学経験があるそうで、日本語も N3 レベルでうまく話ができる。

④ 介護福祉士国家試験の受験状況

・　非常にまじめで勉強熱心なベトナム人が 1 人、今年の介護福祉士国家試験を受験した。

自己採点ではぎりぎり不合格の見込みとのことだった。

・　他のベトナム人 2 人は実務者研修を受講中である。

⑤ 生活支援・教育体制

・　外国人介護人材の学習支援に係る職員数は 5 人である。専任ではなく、外国人材が働いているユニットのリーダー職が OJT で指導している。

・　介護未経験者に対しては、入職時に日本人と同様、食事・入浴・排泄の三大介助等について、同じようなカリキュラムで教育している。あとはリーダー職がついて、OJT で都度時間をかけて教えているため、統一されたものがない。

・　全員日本語でのコミュニケーションに問題はなく、ゆっくり話して、復唱して確認すれば分かってもらえる。日常会話で困ることはあまりない。介護の技術は、実習生も特定技能もひととおり学んで来るのか、イメージはもっている。あとは現場でやり方など見せて覚えてもらう。

(3) **学習支援についての課題等**

・　現状、訓練はシフト勤務に対応できるようにするための OJT のみで、日本語や介護指導、介護福祉士取得に向けての支援ができていない状況である。

・　人員的に学習支援を行う余力がない状況で、介護福祉士取得に向けて効率よく学習支援できる方法があれば取り入れたい。

4.　質疑応答・意見交換

問：大子は今後ベトナム、ネパール、ミャンマーの人が同じ施設で働くことになります。多国籍の外国人同士はどのようにコミュニケーションをとるのでしょうか？

（日立さくら日本語学校）

・　その人にもよると思うが、当校では日本でのアルバイトの話などといった共通の話題でクラス内が仲良くなっている。多国籍であることはプラスになることが多いと思う。

・　ミャンマー人留学生は、母国の情勢不安を受け「ミャンマーでは何も出来ないから自分の未来のために何かしたい」という思いで来日していて、覚悟が違うと感じる。紛争がなければ母国で大学に進学しているような優秀な人が来日するイメージである。仏教国で性格が穏やかで、日本語発音も自然ですぐ上手になる。

（いばらき中央福祉専門学校）

・　共通言語が日本語になると思うので、お互いに教え合うことで日本語が上達していくというプラスの効果も期待できる。

問：OJT でのみ指導をしている中で、介護福祉士国家試験に向けてどのようなサポートをしていけばよいですか？

（いばらき中央福祉専門学校）

- 施設として外国人介護人材に介護福祉士の資格を取って、働いてもらいたい希望があるのか、ご本人達が国家試験を受験するのかどうかが重要である。
- これから外国人介護人材の支援をするにあたり、介護の申し送りや記録等を重点的にサポートしたいのか、国家試験対策を重点的に行いたいのか、どのように考えているか教えていただきたい。

（あいおんの丘大子）

- 実務者研修を受けるということは介護福祉士を目指しているということと理解している。介護福祉士資格を取れば家族を呼べたり、永住にも繋がったりするため、今残っている人はそこを目指している意識があると思っている。施設としては長く勤めてほしいので、介護福祉士資格を目指してもらえれば施設としてもありがたい。
- 記録は専用のソフトを使っており、2、3 年勤めればできるようになる。

（あいおんの里羽鳥）

- 当法人としても日本語能力が介護の質と直結すると考えているので、日本語能力試験 N2 や N1 に合格すれば資格手当をつけている。介護福祉士を目指すより日本語能力試験に合格するほうが短期間で給与が上がると思っている人がいるかもしれない。施設としては、日本語も介護福祉士資格も両方頑張ってほしい。
- 介護の技術については OJT である程度教えられる。

（いばらき中央福祉専門学校）

- 当校で実施している介護福祉士国家試験対策では、国家試験対策の授業を行う教員が、留学生に対して試験で出てくる漢字や注意して覚えるべき漢字、読み方、意味を教えている。特に効果的な学習方法は、過去問や最新の模擬試験を解いたり、間違った選択肢を正しい文に直したり、重要なキーワードの穴埋め問題、正誤判定問題の演習等である。また、時事問題も教えるとよい。
- 過去問演習の注意点は、法改正などによって制度が変更になり、過去問では〇でも最新の制度や法律では×という場合があることである。いつ法律が改正されたかのチェックし、最新のデータやテキストもみていただきたい。
- 実際の国家試験対策は、受験する人の日本語レベルや、どの位介護の専門知識が頭に入っているか、得意苦手の分野にもよるが、初回受験者と受験経験者の試験対策は分けて考えた方がよい。
- 直接指導するしないにかかわらず、日本人職員も実際に問題を解くことで、外国人がつ

まずきやすい箇所や最近の傾向の変化などをフォローしやすくなる。

・ 「にほんごをまなぼう」というサイトでは、日本語能力試験 N3、N2 レベルの問題がある。介護福祉士国家試験のための用語集や一問一答もある。ベトナム語、ネパール語版もあるので勉強しやすいと思う。当校の留学生も実際にそれを使って勉強していた。

（あいおんの里羽鳥）

・ 「にほんごをまなぼう」に登録はしたが、カリキュラムを作ったり、実際に外国人介護人材が学習しているか確認したりするまで至っていない。

・ 入職したばかりの人は、介護福祉士専門用語集や特定技能の教科書のようなもので基本的な知識を勉強している。

問：日本語学習支援を効果的に行うために、どんな工夫ができますか？

（いばらき中央福祉専門学校）

・ 教材のコピーをただ渡すだけではなく、期限を決めて問題を解いてもらい、進捗や結果を日本人職員に報告し、分からないところは必ず質問するようにするという工夫が重要である。1 日 1 時間学習時間を設けている施設もある。

（日立さくら日本語学校）

・ 日常からやさしい日本語で話すことも工夫の一つである。ただ、自分はさまざまなところで「やさしい日本語講座」の講師をすることがあるが、介護職の方は普段高齢者などコミュニケーションの取りにくい方と接しているからか、やさしい日本語も上手で、講師として追加で教えることはないという印象である。

・ 学習方法を考える前段階として、効果的な学習には動機付けが重要である。本人が国家試験を受けたいのか、意思確認したほうがよい。その際は、チューターなどあまり上の立場でない人が対応するのがよい。また、介護福祉士を持つ人の資格手当と日本語能力試験 N2 の資格手当の差など、介護福祉士資格を取得するメリットを実際に見せるなどして、本人がやる気になることが重要である。さらに、「来週のテストでは〇点を取る」など宣言させることも効果的である。

・ ネパール人やベトナム人は長期的な目標をたてるのが苦手な場合があり、在留期限のなかで、「あと〇回受験のチャンスがある」など、長期的な見通しを伝えるのもよい。

・ また、長く活躍してほしいと言葉に出して伝えるなど、外国人介護人材が安心できる関係づくりを目指してほしい。アジア圏出身者は恩を感じる国民性で、大事にしてもらうと恩を返そうとする。

（あいおんの里羽鳥）

・ 最初の 6 か月は OJT 期間で自由に時間がとれるので、教育を行うにはそこが勝負だと

思っている。その期間にちょうどよいレベルの日本語の勉強ができれば、よいスタートがきれる。

（日立さくら日本語学校）

・　施設側としては、長期的に学習支援を行うことが重要である。当校の学習者に「何が上手になりたいですか」と聞くと「会話」と答える。会話には文法の理解や語彙などさまざまな知識が必要になる。長期的な国家試験対策と、最初の 6 か月の勉強の 2 種類を意識することが効果的だと思う。

問：今後、3 年間の学習計画を立てる上で、茨城県で今後実施予定の研修はどれくらいありますか？

（茨城県）

・　今年度の事業は出尽くしたが、今後も外国人介護人材の国家資格取得支援の事業は実施していく予定である。茨城県の福祉政策課のホームページをチェックいただくことに加え、「ふくしのおしごとナビ」のメルマガに登録していただければ随時情報をお送りする。また、茨城県老人福祉施設協議会や茨城県介護老人保健施設協会など団体を通じた周知も行っていきたい。

5.　外国人材の学習支援に関するご意見等

（あいおんの丘大子）

・　自治体が支援して日本語学習を提供する場を作ってほしい。

（あいおんの里羽鳥）

・　地域のボランティアの日本語教室に技能実習生を連れて行ったが、目標とする日本語レベルが異なる外国人同士が同じ教室で勉強することになってしまった。クラスを分けるなど対応いただいたが、本人たちから「授業のレベルでは物足りない」という声があり、うまく活用できなかった。

6.　本事業の感想

（あいおんの里羽鳥）

・　日本人職員も介護福祉士国家試験を受けたのはかなり前で、外国人にアドバイスできるかは難しい。その点では、昨年 12 月の研修で、介護福祉士国家試験の問題分析、得点率のデータが参考になった。外国人としてはどの分野の得点率が低いか、日本人との比較ではどうかという説明は非常に勉強になった。

・　12 月の研修は、特に EPA の指導教育を基に組み立てていると感じた。当施設では EPA の受入れ経験がなく存じ上げなかったが、EPA は一人の職員にかなり時間をかけて教育していて、育てるにはそういった方法が参考になるのだと展望が開けた。
・　指導者として派遣されるとなると、それなりのスキルがないと難しいという感覚がある。自分たちが指導内容を構築ができるかというと、持っているのは現場の感覚ということもあり難しい。指導する内容がパッケージ化されていたり、指導する施設をリストの中から選んだり、費用的な補助があったりというような仕組みであれば動きやすい。

（日立さくら日本語学校）
・　日本語学校は基礎の部分を担い、そこから先の専門的なところを養成校の先生にバトンタッチするなど、2 階建ての支援ができれば効果的である。そこに経済的な支援があるとなおよいと思う。

（いばらき中央福祉専門学校）
・　学習支援の実施が難しいという施設にとって、この事業はよいと思う。
・　今回は 1 回限りだったが、今後実施する場合は、複数回面談の機会を設け、学習者や職員にどんな変化があったかフォローしていくことで、国家資格取得においてもより効果的な事業になると思う。

外国人教育者チームの訪問を受けての所感

■あいおんの里羽鳥
・　「ベトナム人やネパール人は長期計画が苦手な場合がある」「多国籍の学生が同じ教室にいるとよい刺激になる」など外国人材との接し方についてよいアドバイスをいただいた。
・　また、国家試験で使用される漢字を理解できるようになる、時事問題は日本人が紹介するなど国家試験対策の具体的なメニューを紹介いただいた。
・　指導者お二人とも教育の専門家で、ご意見で参考になるものがたくさんあった。もっとお話を伺いたかった。

■あいおんの丘大子
・　改めて人材育成について、時間の共有や十分なコミュニケーションが求められることなど、時間を要するものであることを再確認できた。
・　現状、人材不足や時間の無さにより、OJT 以外に教育訓練の場をなかなか設けられていない。外国人労働者を指導する立場の職員のための研修があれば、積極的に受講させていきたい。

以上

外国人教育者チーム派遣記録（概要）（京都府）

＜日時・場所＞

日時：令和 6（2024）年 2 月 5 日（月）14 時～

場所：社会福祉法人本願寺龍谷会 ビハーラ本願寺（京都府城陽市奈島内垣内 1 番地）

＜参加者＞

（外国人教育者チーム）

かなえグループ（社会福祉法人かなえ福祉会 特別養護老人ホームすないの家太秦、ヒューブル株式会社）

株式会社京都民際 京都民際日本語学校

（訪問先）

社会福祉法人本願寺龍谷会 特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺

（オブザーバー）

岡本匡弘 委員（京都保育福祉専門学院　副学院長）

京都府外国人介護人材支援センター

（事務局）

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング

1. 外国人教育者チームについて

(1) かなえグループ

- 平成 23（2011）年 6 月 28 日設立。社会福祉法人かなえ福祉会（以下「かなえ福祉会」という。）、公益社団法人国際人材研修機構 H-ITO、huble 株式会社（以下「ヒューブル」という。）を運営している。
- かなえ福祉会では、特別養護老人ホーム「すないの家」（愛知県 3 事業所、京都府 2 事業所）、グループホーム（愛知県 1 事業所）、及び保育所（愛知県 4 事業所）を運営している。かなえ福祉会全体で 60 人程度の外国人職員を受け入れている。
- huble 株式会社は、かなえグループにおける特定技能外国人の受入れとともに、グループの登録支援機関として、令和 2（2020）年 1 月 28 日に設立した（許可番号 23－ユー302298）。特定技能人材支援、外国人人材マッチング事業、外国人人材オンライン教育事業を行っている。

(2) 京都民際日本語学校

- 平成 13（2001）年 10 月創立。京都市内に 3 か所のキャンパスを有する。日本の大学、大学院、専門学校等への進学を目的とする「進学コース」と、日本・母国での就職、あ

るいは日本文化を中心に学ぶことを目的とする「一般コース」を設けている。

- 5 年ほど前から、EPA 介護福祉士候補者の受入れ法人・施設からの依頼により、日本語能力試験（JLPT）N2、N3 の指導をしている。
- N2、N3 レベルの日本語能力に加え、介護の基本語彙を身に付けた上で、3 年で介護福祉士国家試験合格を目指すプログラムを組んでいる。外国人向けの初任者研修も実施している。
- 介護分野のみならず、建設分野の特定技能外国人向けのクラスも開催している。

2. 訪問先（特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺）について

(1) 施設の概要

- 平成 20（2008）年 4 月 1 日開設。定員は入居者 100 名、ショートステイ 8 名。
- 人員不足により、最近外国人採用を始めた。現施設長が着任した昨年 2 月以降、常勤介護職が 11 名退職したが補充は 1 名のみで、現在はその 1 名も退職してしまった。
- 外国人職員の受入れ状況：技能実習 2 名（フィリピン）、特定技能 8 名（ベトナム 2 名、ロシア 1 名、フィリピン 5 名）、留学 2 名（フィリピン）
- そのうち、ベトナム出身の特定技能 2 名は技能実習 3 年からの移行者で、第 36 回（令和 5 年度）介護福祉士国家試験を受験した。日本語能力は、1 人は N2、もう 1 人は N3 である。

  また、2023 年 11 月に採用した特定技能 1 名（ロシア出身、日本語学校卒）は、京都府外国人介護人材支援センター主催の「外国人向け介護に係る入門講座」（介護の基本的な知識・技術を学んでいただくための勉強会）に参加したことをきっかけに、当施設での採用につながった。
- 外国人職員の学習支援に係る職員数：3 名（兼任）
- 「介護労働安定センター ケア・サポート講習」[1]（講師：岡本匡弘委員）を通じて、各階層（新人、中堅、リーダー層）の職員研修（計 20 本）を実施中。来年度の研修計画も策定予定。

(2) 学習支援についての課題等

- 施設として、資格取得支援制度でテキスト代や研修費用等は負担しているものの、内容の支援はできておらず、介護福祉士国家試験を受験したベトナム人 2 名は、独学で勉強していた。
- 2024 年 1 月にフィリピン出身の特定技能外国人 5 名を受入れたが、日本語がうまく通じず、スマホアプリを使って、しのいでいる状況である。日本語の学習支援の必要性を感じているが、どうしたらいいか分からない。

---

[1] 介護事業所の要望に応じた講習を計画し、提供するオーダーメイド型の講習（https://www.kaigo-center.or.jp/jigyo/care_support.html）（最終閲覧日：2024 年 2 月 7 日）

・　外国人職員を配置したユニットのリーダーが、生活全般の指導、学習指導リーダーを担うことになっているが、具体的な役割は今後の検討課題である。

3.　質疑応答・意見交換

問：外国人職員を初めて受け入れた時に行ったことは何ですか？

（かなえ福祉会）

・　受入れ当初は、日本語がどこまで伝わるのか不安があった。そのため、文字遊びのようなものを通じて、どのくらい聞き取りができるか、言葉を発することができるかを定期的に確認するようにした。
・　何か困ったことがある時は、法人内の担当者（施設ケアマネ）に直接尋ねるように伝え、他の職員が負担を抱え込まないように配慮をした。業務上、ケアプランをもとに動くという前提があるため、何かあれば施設ケアマネに尋ねるという雰囲気や体制は既に出来ていたので、対応しやすい面もあった。
・　しばらく経って、最初に受け入れた外国人職員が成長してきたら、新人の外国人職員（後輩）に指導してもらうようにした。ここまでの土台づくりが大変だが、この頃になると、日本人職員も「今度の新人の日本語能力は以前の〇〇さんくらい」と見込みを立てて接することができるようになる。

問：介護福祉士国家試験合格のために必要な日本語能力はどのくらいですか？

（京都民際日本語学校）

・　介護福祉士国家試験の日本語を理解するためにはN2レベルが必要で、N3レベルで受験するのはかなり厳しいと思う。問題文が十分に理解できず、非漢字圏出身者は特に、福祉用語の漢字が難しくて理解することができない。
・　試験対策としては、「～でしょうか」という表現は疑問ではないこと、「ところが」「しかし」の後に筆者が言いたいことが記載されているなど、キーワードを覚えること、長文対策も必要である。

問：日本語能力試験（N1～N5）の目安はどのくらいですか？

（京都民際日本語学校）

・　日本語能力試験は選択問題しかないので、「話す」能力についてはみていない。そのため、同じNのレベルであっても、会話の能力は個人差が大きい。
・　日本人が思う「やさしい日本語」と外国人職員が思う「やさしい日本語」は異なる。

日本人がやさしい日本語だと思っているものが、外国人にとっては全く知らない言葉である場合も考えられる。
例えば「転倒」に関して説明する場合、「ころぶ」「こける」はN3以上で習う言葉なので、N4では「たおれる」と表現する必要がある。また、「掃除をする」はN4でも使えるが「掃除機」は習っていないので、「バキュームする」などに言い換えることが求められる。

・ 日常会話の中で、外国人は汎用性の高い言葉から先に勉強していくということを、受入れ側の日本人も意識する必要がある。自分の言葉が外国人職員に伝わらない場合、その言葉の汎用性が低いということである。「言い換える力」を身に付ける必要がある。
・ N5とN4のレベルについて、N5は「サバイバルするための日本語」（例：食べたい、眠い）、N4は「サバイバルするための日本語＋状況説明」（例：朝ごはんを食べていないので、お腹がすいた）と説明している。
・ 知らない単語は聞き取ることができず、会話もできないので、まずは介護現場で使われている言葉について、仕事をしながら覚えていき、語彙を増やしていくのがよい。

（岡本委員）

・ 「転倒」に関連して、確かに「たおれる」のほうが分かりやすいが、介護の観点からは尊厳の保持という点で問題がある。言葉の意味を理解し、正しく理解できるように促すことが介護福祉士国家試験合格につながっていく。

問：いつから介護福祉士国家試験の勉強を始めればよいですか？

（ヒューブル）

・ 最初の面接の時に、介護福祉士国家試験を受けたいかどうかは確認している。しかしながら、海外から日本に入国して生活してみると、気持ちが変わることもある。迷っている人には、介護福祉士国家試験を受験しない場合でもJLPTは受験するようにと伝えている。

（京都民際日本語学校）

・ 同じ特定技能 1 号の在留資格であっても、技能実習からの移行なのか、日本語学校出身か、あるいは海外現地からの入国なのかによって、大きくレベルが異なる。技能実習から移行した人や日本語学校出身者は、特定技能の 5 年間があれば充分介護福祉士を目指すことができる。一方、海外現地から直接入国した人には生活支援が必要で、かつ日本語能力がN4レベルの場合、5年間で仕事をしながら介護福祉士国家試験に合格するのはかなり厳しいだろう。受入れ施設は、それぞれの特定技能外国人にとってふさわしい目的を見極めた上で採用する必要がある。

問：どのような順番で介護福祉士国家試験の勉強をすればよいですか？

（岡本委員）

- 日本人も外国人も身体の構造は同じなので、身体に関する科目から入っていくのがよい。制度については暗記するしかないが、最後に学ぶのがよい。最初に制度から学び始めると、分かりづらく嫌になってしまう。
- 外国人は「介護過程」の点数が取れない傾向がある。制度に関する問題が苦手というイメージがあるが、実は日本人の点数とそれほど違いはない。暗記問題なので、外国人のほうが割り切って覚えることができる面もある。
- 受入れ法人・施設でまず行うべきなのは、介護福祉士国家試験に出題されるような基本的な介護と現場で実際に行われている介護の違いの有無、違いがあるとすればどのように異なっているかを整理することである。例えば、口腔ケアで総義歯を洗浄する時、下の義歯、上の義歯の順番で口から出す。装着する時は上の義歯、下の義歯の順番で行う。しかし、実際には上の義歯、下の義歯の順番で出す方もいる。そのようなかかわりをみている外国人は、試験でうまく答えることができない可能性がある。

問：日本語の学習支援はどのようなことをすればよいですか？

（京都民際日本語学校）

- N3 レベルから受入れ施設のスタッフが教えるのは難しくなってくるので、専門家（日本語教師）による指導を受けたほうがよい。
- EPA 介護福祉士候補者の場合、コロナ前は講師が週 1 回施設に赴き、1 回あたり 3 時間ほど指導をしていた。EPA 介護福祉士候補者向けの講座を特定技能向けにする場合、3 年で教えている内容を 5 年に延ばすことになる。受入れ施設の職員向けに「やさしい日本語」の指導などの相談にのることも可能である。

（ヒューブル）

- 受入れ当初は他業種で工場勤務をしていた人などが多く、日本語の問題が大きかった。一般的な会話は問題ないが、介護のコミュニケーションとなると難しく、急遽日本語の講習会を開催するようになった。
- 現在、介護福祉士を目指すコースでは、最初の 8 週間は 1 週間に 1 回、その後は月 1～2 回、試験対策とは別に日本語講師によるオンライン講習会（Zoom）を開催している。勤務時間外の開催で 20 時スタートの場合が多い。かなえ福祉会は愛知県と京都府に事業所があるので、オンラインだと多くの外国人職員が参加しやすい。少人数での開催のため、日頃の悩みを話す場にもなっている。
- 各事業所の問題意識に合わせて、救急搬送の時の言葉、知っておいてほしい言葉などを教えている。仕事で出席できない場合は、動画配信の形でフォローしている。

・　日本語能力試験の 2 か月くらい前から、N2、N3、N4 試験対策のクラスを組んでいる。週 1 回のクラスであるが、週 2 回のほうが集中力が上がるかもしれないとの意見があり、検討中である。
・　自主学習に関しては、「あなたの勤め先（受入れ法人）が日本語の勉強の費用を出している。ここで働いていくための力になるので、必ず参加してください。」と定期的に伝えている。施設からも声掛けをしてもらっている。

（京都民際日本語学校）
・　外国人本人に勉強する習慣がついているかどうかがポイントである。
・　勉強を初めてしばらくすると、仕事が忙しいなど色々な理由をつけて休みがちになる人もいる。参加してくれた時間でしっかり勉強してもらうように心がけている。

問：学習環境を整備するためには何をすればよいですか？

（かなえ福祉会）
・　日本人職員の中でメイン担当者を配置し、その担当者が他の職員を引っ張っていく形にしないと皆が他人任せになってしまう。また、教えることが苦手な職員もいる。担当者を専任とする、時間外での活動を認めるなど、法人・施設が担当者をサポートする姿勢を見せれば励みになる。
・　外国人職員本人から見て、相談窓口となるのは 1 人に絞ったほうが分かりやすい。相談する人が複数いると、それぞれの言うことが異なり混乱を招く可能性がある。なお、本人から見た相談先が明確であれば、相談を受ける担当者自体は複数いても構わない。生活面では同性の担当者のほうが相談しやすいこともある。ただし、必要に応じて担当者間で情報共有できる環境が必要である。
・　ビハーラ本願寺の場合、施設長の下でユニットリーダー同士が連携すれば、課題に対応していけるのではないか。また、それぞれのユニットリーダーがひとりで問題を抱え込むことを防げるのではないか。

（京都民際日本語学校）
・　当校の学生の出身国は様々で、計 40 か国に及ぶ。各国担当の職員をそれぞれ配置し、必要に応じて連携している。
・　受入れ施設の学習環境整備の取組みとしては、例えば N3 に合格したら手当が出るなど、分かりやすい目標があればモチベーションが上がるのではないか。

4.　外国人材の学習支援に関するご意見等

（岡本委員）

・　外国人向けの介護福祉士初任者研修（以下「初任者研修」という。）があることが望ましい。介護の基本を学ぶには、初任者研修を受けたほうがよい。グループワークができる程度の人数（5 人程度）が集まれば、地域で開催することも可能である。

・　地域で介護福祉士実務者研修（以下「実務者研修」という。）を開催することも有効ではないか。外国人向けの実務者研修を開催する方法もあるが、外国人が日本人の中に入って受講すると、日本人がうまくフォローしている場面もよくみられる。進め方をゆっくりにすれば、日本人と外国人が一緒でも実施可能である。

外国人教育者チームの訪問を受けての所感（ビハーラ本願寺）

・　日本語検定 N4 が、どの程度の日本語力があるのか、日本語学校の先生のお話を聞かせていただき、よくわかりました。

・　日本語の学習、介護福祉士試験のための学習体系や、法人、施設としてのバックアップ体制の重要性についても、認識を新たにすることにより、関係機関との連携が必要であると思っております。

以上

外国人教育者チーム派遣記録（概要）（広島県）

＜日時・場所＞

日時：令和 6（2024）年 2 月 8 日（木）13 時～

場所：株式会社不二ビルサービス 介護付有料老人ホームふじの家観音（広島市西区南観音 8 丁目 11-29）

＜参加者＞

（外国人教育者チーム）

学校法人木村学園　トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

（訪問先）

株式会社不二ビルサービス　介護付有料老人ホームふじの家観音

（検討会委員）

龍谷大学短期大学部　教授　伊藤優子 委員

（事務局）

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング

1.　外国人教育者チーム（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）について

(1) 学校概要

- 1997 年開校の専門学校。介護福祉学科、こども保育学科、臨床工学科を設置している。
- 留学生向けに日本語学科を設置し、2 年間もしくは 1 年 6 か月間の日本語進学コースと、1 年間の介護進学コースを提供している。日本語進学コースは日本の大学または専門学校への進学、介護進学コースは当校もしくは姉妹校の出雲校の介護福祉学科への進学を目的とする。

2.　訪問先（介護付有料老人ホームふじの家観音）について

(1) 施設の概要

- 介護付有料老人ホームふじの家観音（以下「ふじの家観音」という。）は 2012 年 1 月開設で、1 階 3 室、2～4 階各 12 室、全 39 室となっている。
- キャリア段位制度をベースとした、ふじケア版のキャリア段位制度を開発している。ふじケア版の基準を職員が理解しやすいよう、トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校の協力を得て動画マニュアルを作成している。1 年に 1 回の全職員対象の研修では、その中から課題を出している。

(2) 外国人介護人材の受入れ状況

（ふじの家観音）

- 現在は、技能実習 1 号 2 名、在留資格「介護」（介護福祉士養成校出身）1 名の計 3 名を受け入れている。
- 在留資格「介護」のベトナム人は、留学生として入国し看護師を志していたが、日本語の難しさと看護大学に行くことの難しさから進路を再検討し、当社でアルバイトをしながら養成校に通い、そのまま就職してくれた。
- 技能実習生を 2019 年に受け入れる前から、配偶者ビザで来日した介護の就業経験のない方を雇用した経験があり、外国人と共に働く土壌は培われていた。

（株式会社不二ビルサービスケア事業部全体）

- 現在は、技能実習 1 号 2 名（ベトナム）、技能実習 2 号 2 名（インドネシア）、特定技能 1 号 4 名（カンボジア、フィリピン、ベトナム）、在留資格「介護」2 名（ベトナム人 1 人は介護福祉士養成校出身、フィリピン人 1 人は EPA 終了後帰国・再入国）、永住者・定住者等 3 名（フランス、フィリピン、ベトナム）を受け入れている。
- 在留資格「介護」のフィリピン人は神奈川県の特別養護老人ホームで EPA を終了後、介護福祉士国家試験に不合格となり帰国し、その後特定技能として当社で採用して再入国した。再入国した年に介護福祉士国家試験に合格し、昨年 11 月に家族を呼び寄せた。息子が昨年 12 月から地元の小学校に通い始めたことから、学校探しや学校との連携、学校との面談に通訳者を同席させる等のサポートを行った。
- 2019 年に技能実習生 2 名（カンボジア）を初めて受け入れたが、現在は帰国している。日本人の配偶者等（フィリピン）3 人を雇用したこともあるが、現在は他職種に転職している。
- コロナ禍では他職種からの転職が多かった。コロナ禍でも介護はなくならない仕事だからということで面接を受けに来る特定技能外国人が多かった。
- 2024 年度は、新たに技能実習 1 号 3 人（ベトナム）、特定技能 1 号 1 人（ベトナム）を受け入れる予定である。現在採用面接中の EPA 生もいる。今後も計画的に外国人スタッフを増やしていきたい。
- 登録支援機関は利用せず、自社で対応している。当社の社長室が登録支援機関のような業務を行っており、入管対応、送出機関や POLO（Philippine Overseas Labor Office、フィリピン政府が海外に設置している労働者保護・支援のための機関）とのやりとりを担っている。

(3) 学習支援の体制及び方針

- 外国人介護人材の学習支援に係る職員数は 3 名で、うち 2 名は社長室、1 名はケア事業部に所属している。社長室の 2 名はベトナム人男性と、フィリピンと日本のハーフの男性で、外国籍スタッフにとって心強い存在となっている。フィリピン人介護人材が国

内で当社に転職してくるのは彼の存在によるところが大きい。

- 日本人職員も含めて、実務者研修の受講料は会社で負担している。また、介護福祉士国家試験に合格すると報奨金が出る。その他、業務に必要な研修には、会社の費用負担で参加することができる。
- 外国人職員については、日本語能力試験に合格すると手当を支給している。N3 に合格したら 4,000 円支給され、級が上がるごとに 2,000 円上乗せされる。また、N1 に合格すると社内表彰をするなど、やりがいや達成感を感じられるようにしている。
- 介護福祉士国家試験対策については、専用のプロジェクトチームを設けている。外国人介護福祉士にも参加してもらい、外国人だからこそ躓くポイントを集中的に教えている。教材は出版されているものを活用し、授業はオンラインの場合も対面の場合もある（受講料は無料）。
- 外国人職員は全員社宅に住み、個室、机、ネット環境が提供されている。社宅規定は日本人職員と異なり、単身の外国人職員の場合、家賃の自己負担額は 15,000 円／月としている。Wi-fi 通信費は全て会社負担となっている。また、一時帰国に係る費用は自己負担だが、長期休暇はできるだけシフトを調整して対応できるようにしている。有給休暇の説明をしっかりと行い、母国に帰りやすい支援をしている。
- 技能実習と特定技能では知識の習得度合いや仕事を開始するまでのプロセスが異なるため、現場の指導はそれぞれの在留資格に合わせて行っている。現場配属の前に日本語でどの程度の業務ができるか、どの程度日本語を理解しているかを確認し、分からないことは言うように伝えている。また、社長室と受入れ施設の担当職員が連携し、施設内での指導や悩み等の相談対応を行っている。
- 外国人職員ばかり手厚くサポートされていると日本人職員が感じるのではないかという懸念もあったが、実際はそのような声はあまり聞かない。例えば、受入れ前にチームで当該外国人職員の母国の料理を食べに行ったり、外国人職員をサポートしてくれる日本人職員に積極的に声掛けやフィードバックをしたりすることで、受入れの土壌を作り、外国籍スタッフを一丸となって応援する雰囲気を醸成している。
- 外国人職員が入職する前から、社内表彰や月間 MVP など、業務に直接関係ないこと（例：財布を交番に届けた）も含めて職員の日頃の取組みを積極的に褒める仕組みづくりをしている。
- 最初に技能実習生を受け入れる前は日本人職員が不安を感じている様子もみられたが、受け入れてみると実習生をよくフォローしてくれている。技能実習生の意欲や努力を見て、受入れ側も新鮮な気持ちになる。

(4) 学習支援についての課題等

- 外国人職員に長く働いてほしいこととキャリアアップしてほしいという思いから、強制はしていないが、最終的に介護福祉士国家試験の受験・合格を目標としている。
- そのため実務者研修を受ける必要があるが、それを受講してもらう時期が悩ましい。

N3 では授業についていけないと聞いているため、N2 を目標に日本語学習を促している。

- 最大の課題は、日本語の学習支援である。最初の 1 年間は、生活や仕事のために日本語の学習にかなり意欲的で、日常会話は問題なくできるようになる。しかし日本語能力試験も介護福祉士国家試験も、文法の正しい理解や一定の語彙の獲得が要求され、試験勉強で躓いてしまう。また、施設内の職員はやさしい日本語で指導するため、施設職員と接するだけでは、多様な語彙や表現を覚えられず日本語が上達しない。この点が介護福祉士国家試験に合格できない要因の一つと考えている。
- 技能実習制度では初級評価・専門級評価・上級評価の各段階で習得すべきものが決まっている。目安がある分、介護技術の指導やその根拠となる考え方を日本人と同様に教えることができ、比較的スムーズに学習が進む。一方、特定技能は技能実習のような目安がなく、また「なんとなく」で対応できてしまったり、根拠を知らないまま対応を覚えてしまったりするため、ある程度進捗をこちらで確認しなければならない。その点に難しさを感じている。
- 業務中分からないことがあれば一緒に勤務しているスタッフに聞くことが多い。聞きやすい環境は整っていると思うが、分からないことを教えたとしても、理解していないのに「大丈夫」と答えてしまうなど、本当に分かっているか判断しづらいという課題感もある。

3. 質疑応答・意見交換

問：既に国家試験対策を実施している中で、合格率を上げるためにはどのような支援をすればよいですか？

（株式会社不二ビルサービス）

- 介護福祉士国家試験の受験意思については、採用面接時と定期的な面談で確認している。また、実務者研修を受けてもよいと判断されるタイミングで声をかけている。介護福祉士国家試験には 1 回の受験ではほとんど合格できないため、在留期間内に受験できる回数から国家試験対策を始めるタイミングを逆算し、声かけをしている。
- 介護福祉士国家試験対策プロジェクトチームのスタッフが、合格率などを見ながら試験対策の内容を毎年改良している。ノーコードのアプリケーションを開発し、試験対策の問題を取り込み、受講生が答えを入力するとプロジェクトリーダーに通知がいくようにすることで、進捗や正答率を「見える化」した。この取組によって、受講生の苦手分野の重点的な対策ができるようになった。
- 国家試験対策の受講生には日本人も含まれている。担当係長（ケアマネジャー）、介護福祉士養成校出身の若手職員、先輩の外国人職員が連携してサポートしている。
- 外国人職員の受講生は、問題の意味を正しく理解するのに日本人より時間がかかると

聞いている。日本語が最大のネックで、日本人と外国人で学習に要する時間にかなり差が出る。合格率を上げるために何をすればいいのか苦慮している。

- 外国人職員は、普通のコミュニケーションは上手な人が多い。利用者が話す言葉には広島弁など方言も入っているが、しっかりと理解している。利用者と上手にコミュニケーションを取ることができるが、介護福祉士国家試験には不合格が続いている外国人職員に対して、日本語の指導を必ずしも十分ではなかった。
- 職員間で「やさしい日本語」が浸透しすぎていることが、日本語能力が伸びない原因のひとつかもしれないと考えている。

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

- 日本語能力試験で測る日本語能力とコミュニケーションで必要な日本語能力は異なり、よく話ができる学生が N4 ということもあるが、N2 まで取っていれば勉強の仕方が分かる。合格できない人は勉強の仕方が分からないのだと思う。暗記はできるが、読み解く力が求められると点数の差が出るのだと思う。
- N2 で覚える語彙と専門用語は全く異なる。現場では「体位変換」などといった専門用語を外国籍スタッフに対して使わないという方針の施設もあるようだが、申し送りでは専門用語が飛び交うということを学生に伝えている。
- 「やさしい日本語」を使いながら仕事をしていると、試験に出る専門用語（こころとからだの問題、身体の部位など）と現場で使う言葉が一致しないことがある。

（伊藤委員）

- 日本語能力試験のレベルと介護福祉士国家試験のレベルは結び付けて考えなくてもよい、日本語能力試験に合格してから介護福祉士国家試験を受験するという順番でなくてもよいという日本語の先生もいる。日本語能力試験で高い級に合格する人は勉強の仕方が分かっていて勉強の習慣もついているという傾向はあるが、日本語能力試験だけを重視しなくてもいいようだ。
- 方言を覚えたという話があったように、繰り返し使う言葉は覚えていく。国家試験の日本語を含め、その言葉を繰り返し使うことが重要である。「体位変換」等の専門用語も、仕事の中で使い慣れていくことで、その外国人職員にとっては簡単な言葉になっていく。日本人職員が、外国人職員に分かるように平易な言葉を使い続けてしまうと、日本語レベルはそこで止まってしまう。
- 国家試験の問題などは、声に出して覚えるのも有効である。
- 国家試験の問題を解き慣れていくことが重要である。試験問題を繰り返し解くことで、問われ方や用語に慣れていくことが合格に繋がる。慣れていくまでがしんどいので、モチベーションの維持などのサポートが重要である。

（事務局）

・　別の地域の日本語学校では、施設で週 1, 2 回日本語教室を開く例もあると聞いている。

問：介護福祉士国家試験の問題を解くコツはありますか？

（株式会社不二ビルサービス）

・　試験の問題は難しく、最後まで問題文を読まないと間違えてしまう。日本語は文法上、文末で意味が真逆になることがあると理解していなければ、早く解くために読み飛ばして間違えるという外国人もいると思う。試験の問題を解くコツを伝えられればと思うが、我々も専門家ではないので十分に理解できていない。

（伊藤委員）

・　5 肢択一の問題で、正解だけを覚えるのではなく、間違っている選択肢の何が間違っているのかを答えさせると、付加的な知識が増え、そこが出題されたときに答えられるようになる。そうすると、問題文のどこを見ればよいかという勘所もつく。

問：国家試験合格のため、仕事をする中で勉強できることは何ですか？

（伊藤委員）

・　「脱健着患」や「体位変換」など、自分が業務で関わっていることは言葉に馴染みもでき、内容も把握できるようになる。指導する側が意図的に業務の中で、用いるようにすることも方法の一つ。また、漢字と結びつけると理解しやすくなることもある。

（株式会社不二ビルサービス）

・　日本語がどれだけ習得できているかを確認するため、最初に漢字を含んだ文章の書いてある紙を渡して読んでもらい、その結果によって今後配付する書類の漢字にどの程度ルビを打つかを決めている。漢字の成り立ちや部首の意味を教えられれば漢字を見て内容が想像できるようになるのかもしれないが、介護現場の入職時にそこまで教えたことはない。身体に関する言葉などを教えてあげるとよいかもしれない。
・　日本語を書けなくても読めれば問題ないのかどうか。介護現場ではタブレットが導入されて記録が楽になった反面、書くことを習得する機会は減った。

（伊藤委員）

・　試験問題を解くうえで漢字などの筆記は求められないが、合格者の中には「書いて覚えた」という人もいた。

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

・　脳に記憶させるには書くことが一番有効であるようだ。試験勉強の段階で、記録のよう

に書かずともノートの裏紙等に言葉を書くことを勧めてもよいかもしれない。

- 日本人はさることながら、特に留学生は書いて覚えることが効果的だと思う。介護保険の「険」と老人保健施設の「健」の漢字が異なるなど、同音異字の区別がついていなければ試験で出たときにも混乱する。
- 「介護保険は（　）歳以上」など、虫食いプリントは留学生に喜ばれた。

（伊藤委員）

- 一文全てを書き写さなくても、「介護保険　第1号　65歳　以上」などと重要なところだけ書くのでも十分勉強になる。
- 介護福祉士会の「にほんごをまなぼう」などを使って、母語と並べて専門用語を覚えるとより結び付きやすくなる。
- 例えば介護保険と医療保険の違いなど、覚えておいてほしいポイントがあるので、そこを端的に伝えるのも理解を促すことになる。

問：日本語が母語でない人にとって、国家試験対策のための学習時間の目安はどのくらいですか？

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

- 学校で2年間勉強しても合格しない学生もいる。個人差が大きい。一例として40数点で9月に勉強を開始した学生が、1日2時間勉強して点数が上がっていったが、国家試験には不合格だった。
- 2年生になった4月に受ける模擬試験で、留学生は大体30～40点をとり、本格的な学習を経て秋冬には60点まで成績が伸びる。最終的には、合格点だったが科目が0点で不合格だった学生もいた。

（伊藤委員）

- コツコツ勉強すると、どこかのタイミングでそれまでに学習した内容が一気に結び付き理解が進むので、成績が急激に伸びる。そこまで学習を継続することが難しいので、しっかりと伴走することが重要である。

（株式会社不二ビルサービス）

- 定期的に模擬テストをするのがよいかもしれない。例えば偶数月に模擬テストを実施しコツコツ勉強するための仕掛けを作ると、学習を継続しやすいのかもしれない。

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

- 点数が伸びず諦めかけてしまうケースもあるかもしれないが、点数が上がっていくとモチベーションアップにつながる。最初から全問題を解くのではなく、分かりやすい部

分から取り組んでみるのも一案である。

問：学習継続のための取組みにはどのようなものがありますか？

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

・　ずっと職場と自宅の往復では精神的に厳しいので、2 週間に 1 回程度、あるいは 1 か月に 1 回程度でもよいので、一緒に介護福祉士国家資格取得を目指す仲間とつながる機会をつくり、分からないことを質問することができるとよいのではないか。

（株式会社不二ビルサービス）

・　複数の事業所で終業しており、技能実習生も特定技能外国人も夜勤に入るためシフトがばらばらのため、学習者同士で集まるのは難しい。社内の国家試験対策は月に 1 回程度オンラインで 6 か月間実施するが、プロジェクトチームから施設長に事前に日程を伝え、シフト上の配慮を求めている。

（事務局）

・　同じ法人で、働きながら合格した先輩の勉強方法などを聞くと参考になるかもしれない。

（株式会社不二ビルサービス）

・　元 EPA で特定技能として入職した人は、当社の別の施設で働いている間に国家試験に合格した。4 月入国で当社の国家試験対策も受講しながら、同年度の国家試験で合格した。EPA で来日中に受験した際は、あと数点で合格だったといい、悔しい思いをして帰国したのだと思う。コロナ禍で入国が遅れ 3 年間のブランクがあったため、再入国時に自身の日本語レベルが落ちていることに驚いていた。母国の家族を呼び寄せるという目標が学習のモチベーションになったと聞いている。
・　在留資格「介護」のうち 1 人は養成校時代に受験して不合格となり、翌年度は受験せず、養成校を卒業してみなし介護福祉士として働いていた。もう一度受験するモチベーションをつけるために最も効果的だったのは、介護福祉士国家試験に合格すると在留期間が 3 年付与されるため、在留資格更新の負担が減るということだった。

（伊藤委員）

・　合格者が後輩を教える立場に回ると、躓きやすいところがよく分かって効果的な指導を提供でき、後輩側としても目標とする人物が近くにいることでモチベーションに繋がる。

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

・　日本人学生に対して、教員が教えたことを別の学生に説明してもらうという方法を用いたことがある。聞いただけでは覚えられず、自分の言葉で説明できると理解することができる。一方的に言うだけでは忘れてしまうので、友人同士で今日学習したことを伝えあってみるように声掛けをしている。

問：介護福祉士国家試験の試験内容のなかで、外国人が苦手とする項目はありますか？

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

・　精読系の問題は顕著に苦手としている。こころとからだ、認知症、障害、発達と老化の理解に苦労している。長文問題も苦手である。

（伊藤委員）

・　日本介護福祉士養成施設協会や EPA の分析では、領域介護の得点率が案外低く、こころとからだのしくみや社会の理解は得点率は低いものの、日本人との差は小さかったりもする。領域介護は実践と結びついているため親しみやすいが、国家試験で問われたときに正解にたどり着けないことも多い。その理由として考えられるのは、後者は暗記すれば正誤に迷う余地がないが、前者は現場での対応を回答の根拠にしてしまったり、自分の感覚でなんとなく答えてしまったりするからといわれている。

（株式会社不二ビルサービス）

・　我々は技能実習評価試験の評価者も務めていて、他施設に評価をしに行く機会がある。正しい介護を教える人がいるかどうかは、技能実習生を見ればすぐに分かる。介助の試験では「弧を描くようにして起きる」という項目があるが、正しい弧を描けず、昔ながらの起こし方をしている施設もある。領域介護で正解と現場の対応が違って間違えてしまうというのは納得感がある。

（伊藤委員）

・　まさに「弧を描くように起こす」と教科書には書いてあるが、現場では「こうやって起こす」と言っている可能性がある。「弧を描くように起こす」という表現をする、「弧」の意味や「弧を描く」というのは肘と手をついて重心の移動があることを指す、というように伝えていくと、試験で出題されても解けるようになる。現場で根拠を教えるということにもつながる。

問：国家試験対策でおすすめの教材はありますか？

（伊藤委員）

・　テキストなどは好みもあるが、国家試験の過去問 5 年分の解説を読み砕くとよいとよ

く言われる。国家試験の文章に慣れておく必要がある。

・　介護福祉士会の「にほんごをまなぼう」に、3 年分の国家試験の問題のうち、変化の少ない問題をピックアップして 8 か国語に訳したものが掲載されている。母語で学ぶのも効果的。

（事務局）

・　試験問題に触れ始める時期はいつ頃がよいか。

（伊藤委員）

・　日本語がわからなければやさしい日本語で 1 年間勉強した後にはじめるなど、その人のレベルにもよる。
・　生活支援技術でいうと、技能実習生の初級試験にも「右まひの人が寝るときどちらを下にするか」など内容でいうと介護福祉士国家試験に出てもおかしくないレベルのものも含まれている。
・　ふじケアオリジナル教材の動画も、普段指導している人が登場すると関心を引きやすく理解が深まりやすいのではないか。
・　自分が介護をしている場面をタブレットなどで動画に撮り、客観的に手足の位置を確認することも介護技術を学ぶ方法として効果的である。「自分に助言をするとしたら何を言うか」と問うことで、本人が正しいつもりになっていることを客観的に見て改善できる。
・　高校の授業では、利用者役、介護者役の学生がそれぞれ視線追跡デバイスを付け介護を行い、それぞれの視線をその場でタブレットにつなぎモニタリングしていた。利用者の視線を追うと、介護している学生がまったく別の方向を向いていたり利用者の目の前で手袋をはめていたりということが分かり、効果的であった。

（株式会社不二ビルサービス）

・　ユマニチュードでは、目線を合わせることが基本で、「水平に」「近くで」など指示がある。視線追跡デバイスを使うと効果的な練習ができると思う。

（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

・　当校では、コロナ禍以降、先生の介護の動きを動画に撮って自分たちの動きも互いに撮りあい、それぞれの動作について議論させることがある。撮った動画を見ながら練習する宿題を出すこともある。

4.　外国人材の学習支援に関するご意見等

（株式会社不二ビルサービス）

・　外国人介護職員向けの国家試験対策、実務者研修があるとよい。また、本事業のような指導者用の研修もあると、日本語の指導の仕方など参考になるのでよいと思う。

（伊藤委員）

・　実務者研修は、教える側が外国人に教えることにまだなれていない。また、実務者研修は多くの時間が通信で実施されているため、もう少し外国人に理解しやすい教材があれば、理解が進むと思う。

（株式会社不二ビルサービス）

・　昨年 11 月配属の技能実習生が、認知症介護基礎研修を受講した際、母語の解説があったのが非常に助かった。日本語能力試験 N3 レベルでは、内容を理解できず映像だけ見て終わってしまいそうなところ、母語で説明があったことで、理解が進んだと聞いている。また、ウェブ版なので受講しやすい。学習意欲が高いからか、日本人よりも早く終えている場合もある。次は何を勉強すればよいか聞きに来る。

外国人教育者チームの訪問を受けての所感（ふじの家観音）

・　日頃より教育をされている教員の方々のお話は、非常に勉強になった。
・　外国人介護職員を受け入れている施設は、介護等の専門職ではあるが、教育の専門職ではないので、国家資格受験のために必要な勉強方法について、試行錯誤をしながらの取り組みになり、外国人介護職員本人のがんばりや能力に頼る部分が多かった。
・　今回、具体的かつ効果的な勉強方法を教えていただいたので、ぜひ取り入れてみたいと思う。
・　来年度以降、外国人教育者チーム派遣事業を利用しようと考える施設は、受け入れ前、もしくは受け入れ後など、そのステージによって求める助言が異なると考えられる
・　それぞれのステージで助言を得ることができるような派遣事業があると、今後の外国人介護職員受け入れ施設にとって、心強いと思われる。

以上

令和５年度　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業

外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得に向けた

指導者養成の在り方に関する調査研究事業

【報告書】

令和６年３月

発行　三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
住所　〒105-8501　東京都港区虎ノ門５－１１－２　オランダヒルズ森タワー